

台灣日語學習者縱斷角色扮演資料裡的請託表現 —和日語及華語的母語話者資料之比較—

陳 文敏

靜宜大學日本語文學系 助理教授

摘要

本研究為了闡明在台灣的大學學習日語的台灣日語學習者的請託語言行為於在學中是否有所變化，及請託語言行為上的問題，縱斷式地收集了角色扮演的請託對話資料。收集到的資料有學習者的縱斷資料，日語母語話者資料，與華語母語話者資料三種。本論文的分析主軸為從該三種資料抽取出來的請託主要部份的請託表現。

分析後得到的結果可彙整如下四點。(1)最多使用者的表現分別如下，日語母語話者為中途省略句(言いさし)，華語母語話者為平述句，學習者為疑問句。(2)學習者使用了許多日語母語話者資料裡沒出現的表現來行使請託。(3)使用完全無錯誤的日語請託表現的學習者並非縱斷式地增加。(4)學習者所使用的請託表現並非是「正確使用→正確使用」或「錯誤使用→正確使用」般地，朝著好方向來保持住。今後將參考先行研究及本研究的結果，來更改善並精進授課的準備與指導。

關鍵詞：台灣日語學習者、縱斷調查資料、角色扮演、請託表現、
母語話者資料

受理日期：2013.08.31

通過日期：2013.10.26

Request Expression in the Longitudinal Data of Taiwanese Japanese Learners' by Role-Play: Comparison with Japanese Native Speakers' and Chinese Native Speakers' Data

CHEN, WEN-MIIN

Assistant Professor of the Department of Japanese Language and Literature, Providence University

Abstract

This study focuses on Taiwanese Japanese learners who are studying at the university in Taiwan. The longitudinal data of request conversation by role-play were collected, in order to confirm the existence of change in request language behavior under the course of learning in university and to solve the problem of the request language behavior. Three kinds of data were collected. They are Taiwanese Japanese learners' longitudinal data, Japanese native speakers' and Chinese native speakers' data. In this paper, the beginning of the request expression of the request central part was extracted from the above data and was further analyzed.

As a result, differences in the use of request expression were observed from the data above. Moreover, the request expression which the learners used is not necessarily changing into the good direction such as proper usage stays or error usage becomes proper usage. I would like to improve the instruction of request expression based on the results of both the previous research and this paper from now on.

Keywords: Taiwanese Japanese learners, the longitudinal data, role-play, request expression, native speakers' data

台湾人日本語学習者の縦断ロールプレイデータに 見られる依頼表現 —日本語と中国語の母語話者データとの比較—

陳 文敏

静宜大学日本語文学系 助理教授

要旨

本研究は、台湾の大学で学ぶ台湾人日本語学習者の依頼言語行動の在学中の変化の有無、及び問題点を解明すべく、縦断的にロールプレイによる依頼会話データを収集した。収集したデータは、学習者の縦断データ、日本語と中国語の母語話者データの3種類である。本稿では、この3種類のデータから抽出した依頼中心部の最初の依頼表現を分析対象とした。

分析の結果、明らかになったことは次の4点にまとめられる。①日本語母語話者データでは言いさし、中国語母語話者データでは平叙文、学習者の縦断データでは疑問文が最も多く見られた。②学習者は日本語母語話者データには見られない表現を使用して依頼を行った者が多い。③日本語の間違いのない正確な依頼表現の使用者数は縦断的に増加しているわけではない。④学習者が用いた依頼表現は必ずしも「正用→正用」または「誤用→正用」のようによい方向へと向かっているわけではない。今後、先行研究と本研究の結果を参考に、指導の工夫をしていきたい。

キーワード：台湾人日本語学習者、縦断データ、ロールプレイ、
依頼表現、母語話者データ

台湾人日本語学習者の縦断ロールプレイデータに見られる依頼表現 —日本語と中国語の母語話者データとの比較—

陳 文敏

静宜大学日本語文学系 助理教授

1. はじめに

日本語学習者が教室で日本語教科書を用いて勉強した日本語をどのように運用し、その日本語がどのように変化していくかは、多くの日本語教師の関心事だと思われる。筆者は JFL (Japanese as Foreign Language) 環境である台湾で日本語教育に従事しているため、特に JFL 台湾人日本語学習者の使用実態に関心を持っている。筆者がかつての授業で経験したことであるが、学年が上がっているにもかかわらず、使用した日本語の表現はさほど変わっておらず、例えば何かを頼んでくる際、「～ていただけませんか。」しか使っていない学習者がいた。そこで、本研究は台湾人日本語学習者の依頼表現に関する問題点の一端を掴むため、日本語母語話者教師への依頼という状況のロールプレイを縦断的に調査することにした。

日本語母語話者教師への依頼という状況を取り上げる理由は、日本語母語話者教師との会話は、JFL 台湾人日本語学習者に共通する日本語使用場面だと言えるためである。また、依頼会話の全体像を観察するには、ロールプレイが適切であると考え、在学期間中、日本語の運用が変化するか否かも調査するため、縦断調査を行うことにした。

2. 先行研究

今まで日本語学習者を対象に、断り、依頼、不満表明といった場面のロールプレイ、または談話完成テスト (Discourse Completion Test) による研究は数多く行われてきた (生駒・志村 1993、池田他

2002、アクドーアン・大浜 2008、呉 2008 等)。こういった研究は、主に「意味公式 (semantic formula)」(Olshtain & Cohen1983) に焦点をあて、「日本語学習者と日本母語話者の会話展開パターンに違いが見られる」ということを共通した結果として論じている¹。それぞれの主な結果を紹介する。

生駒・志村 (1993) は、談話完成テストを用い、ハワイ大学大学院生である日本語と英語の母語話者、そしてハワイ大学のアメリカ人日本語学習者を対象とした断り場面を分析した。三種類のデータを比較した結果、日本語学習者の日本語使用の問題点として以下の3点が指摘されている。断りに代案をあまり提示しないこと、断る際に「結構です」を多用していること、直接的な断りを多用していることの3点である。

池田他 (2002) は、ロールプレイと談話完成テストの両方による依頼場面について研究している。研究対象は日本語母語話者 (JJ)、日本にいる中国語母語話者の日本語学習者 (CJ)、オーストラリアにいる英語母語話者の日本語学習者 (EA)、オーストラリアにいる中国語系日本語学習者 (CA) の4種類である。依頼遂行完了まで、被依頼者からの断りが2回設定され、その結果を以下のようにまとめられている。「断りに対する説得とも言える方略として、JJ が「そこをなんとか」というように感情に訴えかける<依頼>を繰り返すことが多いのに対し、CJ では論理的に働きかける<提案>が見られ、EA では<謝罪>が見られ、CA では<謝罪><提案><受諾要求>とさまざまな発話機能を使うという方向性の違いが見られる」(池田他 2002 : 56)。

アクドーアン・大浜 (2008) は、日本にいる日本人学生とトルコ人留学生を対象としたロールプレイデータを用いて依頼場面の研究

¹ 「意味公式」とは、言葉を「その意味内容によって分類したもの」(生駒・志村 1993: 44) で、その分類されたものの最小の機能的な意味単位のことである。すべての研究では「意味公式」という用語が用られているわけではないが、「意味公式」という用語でまとめることができると思われる。なお、本研究のロールプレイデータについての「意味公式」の分析は別稿に譲りたい。

を行っている。その結果として、日本人学生は直接的に依頼し、トルコ人留学生は相手の状況を何度も確認したり、自身の事情を詳細に説明したりして間接的に依頼をする傾向にあった、といったことが挙げられる。

呉（2008）は、日本にいる日本人大学生、及び JFL 台湾人日本語学習者を対象とした談話完成テストによる不満表明場面について分析している。不満表明の中心部表現の出現位置に関しては、日本人大学生は発話の最後、JFL 台湾人日本語学習者は発話の最初である傾向が見られたといったことが報告されている。

上記の先行研究のうち、依頼の表現そのものにも着目している先行研究として、池田他（2002）が挙げられる。池田他（2002）は教師への推薦状依頼というロールプレイ調査から、日本語母語話者と日本語学習者に見られた依頼表現を次の 3 つに分類している。

- ① 平叙文：「書いていただきたいです」等
- ② 言いさし：「お願いできないでしょうかと思って…／先生にお願いできないかなと思ってこうして伺っているんですけれども」等
- ③ 問文：「書いていただけませんか」等

この 3 つの表現のうち、日本語母語話者には「言いさし」が 6 割ほど見られたが、日本語学習者には平叙文と疑問文が多かったことを報告し、母語の違いに原因があるとしている。

3. 研究課題

上記の先行研究で紹介した研究を含め、今までの研究では一回きりの調査分析が多く、縦断的に日本語学習者を対象に行われた依頼表現の研究は管見の限り、ないようである。そこで、本研究は依頼場面のロールプレイ調査を縦断的に行うことにした。以下では依頼表現を焦点に、日本語と中国語の母語話者データ²と比較しながら、

² 次の 4 章で述べるが、中国語母語話者データは本研究の台湾人日本語学習者によるものである。

分析した結果を報告したい。具体的な研究課題は以下の 3 点である。

- (1) 日本語と中国語の母語話者によるロールプレイにおける依頼表現の使用傾向を明らかにすること
- (2) 台湾人日本語学習者の日本語でのロールプレイにおける依頼表現の使用傾向を分析し、(1)と比較すること
- (3) 台湾人日本語学習者に見られた依頼表現を縦断的に分析すること

なお、上記の 3 点の結果と先行研究を踏まえて、指導上の私見も述べさせてもらいたい。

4. 本研究のデータ

調査対象は、筆者が勤務する大学（以下、本校）で日本語を主専攻にしている JFL 台湾人日本語学習者（計 25 名、女性 20 名、男性 5 名、以下、学習者）、及び日本語母語話者である本校の日本人留学生（計 8 名、全員女性、データ収集当時は 19～24 歳）である。学習者は全員同学年で、大学に入ってから本格的に日本語の勉強を始めた。なお、本研究の調査途中で日本に留学した者は、それ以降の調査には参加していない。

学習者と日本人留学生の日本語データの会話相手は、いずれも本学の日本語母語話者教師である。中国語母語話者データは上記の 25 名の学習者と台湾人日本語教師によって構成されている。ロールプレイの状況は、学習者が出会いそうな「歓迎会での挨拶の依頼」と「推薦状の依頼」の 2 つに設定した。ロールカードの内容は表 1 と表 2 の通りである³。

³ 表 1 と表 2 に示すロールカードにある日付は、調査日によって修正している。

表1 「歡迎会での挨拶の依頼」のロールカード

中国語版

角色：學生

你是日本交換留學生歡迎會的籌備委員之一。

該歡迎會將於下列時間與地點舉辦：

時間：兩個禮拜後的5月26日（星期四）15點半

地點：學校內餐廳

你來到XX老師研究室，拜託老師於該歡迎會上致詞。

聽看看老師的回覆後，希望老師最遲能在5月24日（星期二）前給予確切的回覆。

日本語版

役割：学生

あなたは日本人交換留学生歓迎会の準備委員の一人です。

歓迎会は次の日時に次の場所で行われます。

時間：二週間後の5月26日（木曜日）15時半

場所：大学食堂

XX先生に歓迎会で挨拶をしてもらいたいため、先生の研究室に来ています。

先生の返答を聞いて、5月24日（火曜日）までに確実なお返事をしてもらえるようにしてください。

中国語版

角色：老師

有學生來到您研究室拜託您某件事。

禮拜二和禮拜四有可能會臨時開會。

若目前沒有任何預定行程的話，請先接受學生的請託。。

日本語版

役割：教師

学生が研究室へ頼みごとに来ます。

火曜日と木曜日には急に会議が入ることがあります。

予定が入らなければ、学生の頼みを引き受けてもいいと思っています。

表2 「推薦状の依頼」のロールカード

中国語版 角色：學生 你從明年4月開始要到日本SAKURA大學交換留學， 希望你的授課老師XX老師幫你寫推薦信。 推薦信需要兩封，另一封請導師寫了。 推薦信的截止日為12/8（四），你希望老師能在12/6（二）中午前給你。 日本語版 役割：学生 あなたは来年の4月から日本のさくら大学へ留学へ行きます。 授業担当のXX先生に推薦状を書いてほしいです。 推薦状は二通必要ですが、もう一つは担任に書いてもらっています。 締切は12/8（木）ですが、12/6（火）のお昼頃までに 先生からもらいたいです。	中国語版 角色：老師 有位您的修課同學前來拜託您寫推薦信。 對前來拜託您寫推薦信的同學，您總是要求配合下列事項， 與提出下列資料。 ・確認是否有請導師寫 ・推薦信的繳交/截止日期 ・提出 簡單的自我介紹、成績單、留學計畫書 以供推薦信製作 （該些資料要求同學於兩天內 --禮拜六前-- 以電子郵件寄來） ・請託本人於指定日期的中午時件前來您的研究室領取 因最近較忙，推薦信於1/5（四）中午才會完成。 日本語版 役割：教師 受講生が推薦状を書いてもらえないかとお願いに来ます。 いつも推薦状の依頼に来ている学生に次のことを要求しています。 ・担任の先生にも書いてもらうように ・締め切りの情報 ・簡単な自己紹介、成績証明書、留学計画書を二日以内 （土曜までに）メールで送付すること ・依頼人本人が昼休みに研究室に受け取りに来ること また、最近は忙しいので、推薦状の完成は 12/5（月）のお昼になることを伝えてください。
---	---

調査は2011年3月から2012年12月まで行った。学習者の学年から言うと、二年生後半から四年生前半の約1年9ヶ月にわたっているということになる。半年に一回、学習者には上記の2つのロールプレイを交互に行ってもらう形で、それぞれ2回ずつ実施して日本語によるデータの収集を行った。日本語と中国語（上記の25名の学習者による）の母語話者データは1回ずつ収集した。なお、実際に学習者がこのような状況に出会うとしたら、前もって話したいことを準備しておいてから本番に臨むことが予想される。従って、ロー

ルカードの内容は、調査日の二日ほど前に学習者にメールで知らせている。なお、その際、できるだけお互い相談しないように伝えた。こうして、下の表3のように、学習者の縦断データ 84 組、日本語母語話者データ 11 組、中国語母語話者データ 46 組、計 141 組⁴を収集した。

表3 本研究のデータ

				調査日	組数	時間数
歓迎会での挨拶の依頼	学習者	日本語データ	1 回目	2011. 05. 10～ 05. 19	25	約98分
			2 回目	2012. 05. 03	20	約67分
		中国語データ		2011. 06. 07～ 06. 09	25	約64分
		日本語母語話者データ		2011. 03. 11～ 03. 17	6	約12分
推薦状の依頼	学習者	日本語データ	1 回目	2011. 11. 17～ 12. 01	22	約76分
			2 回目	2012. 11. 21～ 12. 06	17	約60分
		中国語データ		2011. 12. 22～ 12. 29	21	約61分
		日本語母語話者データ		2011. 12. 22～ 2012. 01. 05	5	約12分

収集したデータは言語データベース処理システム CHILDES（大嶋・Brian1995、宮田 2004）⁵を使用して文字化を行っている。以下の分析で見る依頼表現は、それぞれの状況における主要な依頼部分で、次の箇所である。

「歓迎会での挨拶の依頼」：歓迎会で XX 先生に挨拶をしてもらいたい、という箇所

「推薦状の依頼」：授業担当の XX 先生に推薦状を書いてほしい、という箇所

⁴ 本研究の参加学習者は少しずつ離脱しているため、各回の参加者は異なっている。

⁵ CHILDES は **C**hild **L**anguage **D**ata **E**xchange **S**ystem の略である。詳しくは <http://www2.aasa.ac.jp/people/smiyata/CHILDESmanual/chapter01.html> または <http://chilDES.psy.cmu.edu/> を参照されたい。

5. 結果

本章はまず、日本語と中国語の母語話者データにおける依頼表現の使用傾向を見ておく。次に、学習者の縦断データにおける依頼表現について、日本語と中国語の母語話者データと比較しながら分析した結果を報告する。なお、池田他（2002）に倣って、依頼表現を平叙文、言いさし、疑問文の3つに分けて見ていく。

5.1 母語話者データにおける依頼表現

日本語母語話者のデータでは、「歓迎会での挨拶の依頼」を6組、「推薦状の依頼」を5組収集した。この11組のデータに観察された依頼表現は平叙文と言いさしの2種類が観察され、計7種類に分けられた⁶。各ロールプレイに見られた表現の内訳は表4の通りである。

表4 日本語母語話者データに見られた依頼表現

		歓迎会 での挨拶 の依頼	推薦状 の依頼	小計	合計
平 叙 文	①（スピーチをお願いしに/書いていただきたくて） 来ました/参りました。	1	1	2	3 (25.0%)
	②お願いできないかなと思って伺いました。	0	1	1	
言 い さ し	③スピーチをしていただきたいなと思って…。	1	0	1	9 (75.0%)
	④（スピーチ/もう1枚）をお願いしたくて 来た/伺ったんですけど。	1	1	2	
	⑤（スピーチをしていただけないかな/ スピーチを頼めたらな/もう一通をお願いしたい） と思っているん/思ったんですけど。	2	1	3	
	⑥スピーチをお願いしたいんですけど。	2	0	2	
	⑦1つ書いていただきたいんですけど。	0	1	1	

注：歓迎会での挨拶の依頼で、①と⑤の発話を計2回している者が1名いた。

依頼表現は日本語母語話者データに12例観察された。そのうち、9例（75.0%）が「～けど」や「思って…」で言い終わり、いわゆる「言いさし」となっている。これは2節の先行研究で紹介した池田他（2002）の結果と一致している。ただし、池田他（2002）ではほかに平叙文と疑問文も見られたが、本研究のデータでは疑問文は観察

⁶ 依頼表現は主要成分のみを取り出し、類似したものごとに分類している。以下の中国語母語話者データと学習者の縦断データも同様の処理をしている。

されなかった。疑問文が見当たらなかった理由については、学習者の縦断データと比較した後、改めて述べたい。

5.2 中国語母語話者データにおける依頼表現

中国語母語話者のデータでは、「歓迎会での挨拶の依頼」を25組、「推薦状の依頼」を21組収集した。この46組のデータに観察された依頼表現の内訳は表5に整理できる⁷。

表5 中国語母語話者データにおける依頼表現

	歓迎会での挨拶の依頼 (25名)	推薦状の依頼 (21名)
平叙文	希望老師「可以／能」「來／到／在」歡迎會上致詞。 <先生に歓迎会で/に来て挨拶してほしいです。> (8名：F02,F05,F06,F10,F11,M02,M04,M06)	希望老師(可以／能)幫我寫推薦信。 <先生に推薦状を書いてほしいです。> (7名：F02,F03,F07,F16,F17,F20,M05)
	想請老師「來／去／到／在」歡迎會上致詞。 <先生に歓迎会で/に来て挨拶をお願いしたいです。> (6名：F07,F09,F13,F14,F15,M05)	想請老師幫我推薦信。 <先生に推薦状を書いてもらいたいです。> (4名：F12,F13,M04,M06)
	想邀請老師在歡迎會上致詞。 <先生を歓迎会での挨拶に招待したいです。> (3名：F01,F16,M01)	需要寫推薦信。(M02)
	我需要您幫我們上台致詞。(F08) <先生に台に上がって挨拶してもらわなければなりません。>	<推薦状を書いてもらわなければなりません。>
疑問文	可以請「你/老師」上台致詞嗎? <先生、台に上がって挨拶してもらえますか。> (3名：F12,F18,F19)	可以請老師幫我寫推薦信嗎? <先生、推薦状を書いてもらえますか。> (6名：F01,F05,F08,F10,F14,F18)
	不知道老師有沒有空可以來歡迎會上致詞? <先生が歓迎会に来て挨拶する時間はありませんか。> (2名：F04,F17)	能不能請老師幫我寫推薦信?(F19) <先生、推薦状を書いてもらえますか。>
	想拜託老師，就是能不能上台致詞?(F03) <先生をお願いしたいんですが、台に上がって挨拶してもらえますか。>	想要拜託老師，可以幫我寫推薦信嗎?(F04) <先生をお願いしたいんですが、推薦状を書いてもらえますか。>
	老師願意上台致詞嗎?(F20) <先生が台に上がって挨拶してもいいですか。>	懇請老師，如果有空的話可不可以幫我寫?(F15) <先生をお願いしたいんですが、時間があつたら、推薦状を書いてもらえますか。>

注：日本語訳は< >に示しており、筆者による。

表5にある表現と前節の表4の日本語母語話者データと比較して

⁷ 本研究の調査対象者は3つの記号で表す。学習者は最初に性別で、Fは女性、Mは男性である。次の数字は通し番号である。日本語母語話者教師は最初にJ、日本人留学生は最初にR、以降は性別と通し番号である。

みたところ、使用表現の種類、及び依頼対象の「老師（先生）」の明言の２点で傾向が異なることを読み取ることができる。この２点に関しては、次節の学習者の縦断データにおいても日本語と中国語の母語話者データとの相違が見られたため、ここで日本語と中国語の母語話者データの比較結果について述べておきたい。

まず、使用表現の種類について説明する。中国語母語話者が使用した表現は平叙文と疑問文の２種類で、いずれのロールプレイでも平叙文のほうが多かった。一方、日本語母語話者では平叙文と言いさしの２種類が使用され、言いさしのほうが多用された。中国語母語話者データに言いさしが見当たらなかった理由は、中国語の依頼で言いさしが用いられにくいからだと思われる。

次に、依頼対象の「老師（先生）」または「你/您（あなた）」を述べている⁸ことであるが、中国語母語話者のデータでは「推薦状の依頼」の M02 の「需要寫推薦信。」（筆者訳：推薦状を書いてもらわなければなりません。）⁹以外、全員に観察されている。これも上述した中国語母語話者には言いさしが見られなかったことと同様に、中国語の構文上の特徴だと思われる。中国語では依頼対象である「老師（先生）」ということばを省略して、例えば「希望可以在那個歡迎會上致詞」にすると、誰に挨拶をしてほしいかは分からなくなってしまう。つまり、中国語では依頼対象の「老師（先生）」または「你/您（あなた）」は構文上の必須成分なのである。一方、日本語母語話者のデータでは、表４に示していないが、「歓迎会での挨拶の依頼」では５名（ $5/6=83.3\%$ ）、「推薦状の依頼」では４名（ $4/5=80\%$ ）に依頼対象の使用が見られたが、中国語母語話者ほど多くなかった。

⁸ 中国語の「你/您（あなた）」はどんな状況・相手でも使用して構わない。そして、日本語のような、失礼になりがちということもない。

⁹ M02 のこの発話は中国語としてぶっきらぼうで、失礼に感じられる。

5.3 学習者の縦断データにおける依頼表現

本節では、まず学習者の縦断データで観察された依頼表現の全体傾向、次に各学習者の結果を見てみたい。

学習者の縦断データをロールプレイ別に整理すると、表 6 と表 7 のようになる。表における「？」付の表現は不自然または別な意味になってしまうもの、「*」付の表現は文法的に誤っているものであることを表す¹⁰。

表 6 と表 7 から、まず分かったのは、学習者が最も多く使用したのは「～ていただけませんか。」と「～ていただけないでしょうか。」という疑問文である。これは、日本語母語話者データでは言いさし、中国語母語話者データでは平叙文が最も多く見られたことと異なっている。一方、学習者にほとんど見られなかったのは言いさしである。学習者の言いさしは、表 6 の 1 回目の F16 の「挨拶をお願いしたいんですが。」、及び表 7 の 2 回目の F20 の「書いてもらいたいたんですが。」の 2 例のみである。

表6 「歓迎会での挨拶の依頼」に見られた依頼表現

	1回目 (25名) 2011.05調査	2回目 (20名) 2012.05調査
平叙文	ご挨拶・挨拶(を)をお願いします。 (4名: F08, F10, F17, F20)	一言をもらいたいと思います。(F12)
	挨拶をしてください。(F01)	一言、お願いします。(F08)
	* スピーチをしてお願いします。(M05)	? 話すこと、お願いします。(F04)
	* かんかんかいの話してください。(F13)	
言いさし	挨拶をお願いしたいんですが。(F16)	
疑問文	挨拶していただけませんか。 (4名: F02, F05, F14, M01)	挨拶していただけないでしょうか。 (6名: F10, F13, F14, F17, F20, M05)
	? 挨拶/スピーチをいただけませんか。 (2名: F19, M04)	挨拶していただけませんか。(F05)
	? 挨拶の言葉話していただいても よろしいでしょうか。(2名: F11, F18)	? 挨拶はいただけませんか。(M04)
	? お話しになってくださいませんか。(F15)	* ご挨拶していただけませんか。(F19)
	? ご挨拶になっていただけませんか。(F06)	? スピーチをしてもらいませんか。(F02)
	? 挨拶するのがいいですか。(F04)	? 講演してもらいませんか。(F01)
	* 挨拶をのべしていただけますか。(F12)	? 講演しますか。(F03)
	* ご挨拶を頂戴いただけませんか。(F07)	? 話してもよろしいでしょうか。 (2名: F16, F18)
		? 留学生に話していただけませんか。(F07)
その他	* ご挨拶…。(M06)	* 挨拶して…。(M06)

注: F03, F09, M02は依頼失敗。

注: M02の当該発話は聞き取れなかった。

¹⁰ 誤用か否かなどの判断は、日本語母語話者教師 1 名とともにを行った。

表7 「推薦状の依頼」に見られた依頼表現

	1回目 (22名) 2011.11調査	2回目 (17名) 2012.11調査
平叙文	書いてもらいたいです。(M06)	書いてもらいたいです。(M05)
	書いていただきたいのです。(F02)	* 書かさせていただきます。(M04)
	* 先生は、えー、手伝って、 手伝って、かいます。(M01)	* 書いてくれてお願いします。(F01)
言いさし		書いてもらいたいですが。(F20)
疑問文	書いていただけないでしょうか。 (11名 : F04, F10, F12, F13, F14, F15, F16, F17, F18, F20, M04)	書いていただけませんか。 (6名 : F02, F05, F07, F10, F18, F19)
	書いていただけませんか。 (8名 : F01, F03, F05, F07, F08, F19, M02, M05)	書いていただけないでしょうか。 (3名 : F13, F14, M06)
		? お願いいただけませんか。(F12)
		? お願いいただけないでしょうか。(F16)
その他		* 推薦状、手伝って、えっ、えっ…。(F03)

学習者に疑問文が多く観察され、言いさしがほとんど見られなかったのは、前節で述べた中国語の構文上の特徴による影響、及び訓練上の転移 (transfer of training、Selinker1972) が要因として考えられる。本研究の学習者は一、二年生の「初級・中級日本語」という授業において『みんなの日本語 初級ⅠⅡ』(スリーエーネットワーク出版) で勉強してきている。「～ていただけませんか。」という表現は、第26課の学習項目の1つである。しかし、日本語母語話者データに多く見られた言いさしの「～たいんですけど。」、「～と思ったんですけど。」などのような表現は『みんなの日本語 初級ⅠⅡ』で取り上げられていないが、本研究の学習者は様々な授業で勉強していた¹¹。それにもかかわらず、言いさしはほとんど観察されなかった。それは、恐らく第26課の文型を先に勉強して記憶に残っており、それに「～たいんですけど。」などのような言いさしが中国語にないため、学習者は疑問文の「～ていただけませんか」、「～ていただけないでしょうか」しか身に付けておらず、言いさしの「～たいんですけど。」などは簡単に発話できるようになっていないのであろう。

¹¹ 本研究の学習者は三年生の聞き取りと会話の授業では『日本語生中継 中～上級』(くろしお出版)、『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク出版) などを使用したため、「～たいんですけど。」のような言いさしは勉強していた。

次に、不自然な表現（「？」付のもの）と間違った表現（「*」付のもの）の使用者が 16 名（25 例）と少なくなく、それから「その他」と分類した、発話を述部まで言えない学習者が 2 名（3 例）おり、表 4 の日本語母語話者データに見られない表現が多数使用されている。表 6 と表 7 におけるすべての例を詳細に観察してみると、敬語または授受表現に関わる箇所、日本語母語話者なら恐らく使わないような言い方、及び誤用が少なくないことが分かった。

さらに、表 6 と表 7 には示していないが、例 1～例 5 のような依頼対象の明言をしている学習者が少なくない。例 4 と例 5 のような不自然、または誤った助詞の例も見られた。

例 1（推薦状の依頼、1 回目）

M06：えとー、えー、私は先生に推薦状を書いていただけませんか。

例 2（歓迎会での挨拶の依頼、1 回目）

F14：先生に歓迎会でスピーチ、をしてくださいませっ、いただけませんか。

例 3（推薦状の依頼、2 回目）

F02：それから、え、一枚は担当さんにお願いしましたが、一枚は JM2 先生に書いていただけませんか。

例 4（歓迎会での挨拶の依頼、2 回目）

F07：先生は挨拶していただけないでしょうか。

例 5（推薦状の依頼、2 回目）

M05：先生から推薦状を書いてもらいたいです。

この依頼対象の明言という現象は、表 5 の中国語母語話者データのほぼすべてに見られたことを報告した。このことから考えると、中国語からの影響に加えて、訓練上の転移も考えられる。本研究の学習者は『みんなの日本語 初級 I』第 7 課の「ものの授受」、及び第 24 課における「動作の授受」の 2 つの単元で、「私は<ほかの人

＜に（～を）（～て）いただきます。」のような助詞の使い方を繰り返し叩き込まれてきている。一方、第 26 課の学習項目の 1 つである「～ていただけませんか。」に関する会話例や練習では、依頼対象は文中にまったく現れていないのであるが、授業の担当教師から恐らくそのことについて特に注意されていない¹²ため、第 7 課と第 24 課で身に付いた表現と併せて用いてしまったと考えられる。

次に、各学習者の結果を見てみたい。本研究の全 4 回のロールプレイ調査を個人別、縦断的（調査時間順）に整理すると、下の表 8 のようになる。表 8 の結果は、表 6 と表 7 に示した表現のみならず、例 1～例 5 のような依頼対象の明言の有無も含めて判断したものである。そこで、誤用または不自然な箇所がない例には○、あった例には×を付ける。さらに、○のマスに網掛けを施している。

表 8 から、まず「歓迎会での挨拶の依頼」にせよ、「推薦状の依頼」にせよ、いずれも 2 回目のロールプレイよりも、1 回目のロールプレイのほうに正用者（○の学習者）が多いことが確認できる。ただし、正用者の割合は 10.0%～40.9%であり、何らかの誤用をしている者が少なくない。

それから、4 回のロールプレイ調査を通して見ると、学習者の依頼表現は必ずしも「正用→正用」または「誤用→正用」のようによい方向へと向かっているわけではないことも分かる。4 回のロールプレイにおいてすべて正用となっているのは F05 の 1 名のみであった。逆に、F10、M04、M05 の 3 名には、4 回とも誤用または不自然な表現が見られ、依頼表現全体において日本語の間違った表現を用いたことは一度もない¹³。F02、F03、F08、F14、F16、M01 の 6 名は「正用→誤用」、F01、F07、F12 の 3 名は「誤用→正用→誤用」というパターンとなっている。F13、F19、M06 の 3 名には正用と誤用

¹² 筆者の場合、「～ていただけませんか。」の可能形に焦点を当てている。

¹³ F04 と F17、F15 はそれぞれ 3 回と 2 回参加したが、いずれも誤用または不自然な表現となっている。M02 も発話失敗、または録音の関係で正用となったものが確認できなかった。

の繰り返しの後、最後に正用が見られた。F18 と F20 の 2 名は最後の調査でしか正用となっていない。

表8 各学習者の結果

状況	挨拶-1	推薦状-1	挨拶-2	推薦状-2
調査時期	2011. 05	2011. 11	2012. 05	2012. 11
参加者	25名	22名	20名	17名
F01	×	○	×	×
F02	○	○	×	×
F03	失敗	○	×	×
F04	×	×	×	離脱
F05	○	○	○	○
F06	×	離脱	離脱	離脱
F07	×	○	×	×
F08	○	×	×	離脱
F09	失敗	離脱	離脱	離脱
F10	×	×	×	×
F11	×	離脱	離脱	離脱
F12	×	○	○	×
F13	×	○	×	○
F14	○	×	×	×
F15	×	×	離脱	離脱
F16	○	×	×	×
F17	×	×	×	離脱
F18	×	×	×	○
F19	×	○	×	○
F20	×	×	×	○
M01	○	×	離脱	離脱
M02	失敗	×	不明	不明
M04	×	×	×	×
M05	×	×	×	×
M06	×	○	×	○
○の学習者	6名 (24. 0%)	9名 (40. 9%)	2名 (10. 0%)	6名 (35. 3%)

上記のことから見ると、学年が上がるにつれて学習者は依頼表現をより適切に使えるようになっているわけではなく、正用と誤用を繰り返しており、依頼表現が定着して適切に使用できる者が少ないと言えよう。

6. 指導上の私見

本章では、5 章の比較分析を行った結果をもとに、依頼表現の種類、及び依頼対象の明言の 2 点について指導上の私見を述べさせて

もらいたい。

まず、依頼表現の種類に関しては、日本母語話者データで見られた言いさしを学習者に身に付け、そして使用してもらいたいものである。上記の報告のように、「～ていただけませんか/いただけないでしょうか。」は、いずれのロールプレイにおいても学習者に最も多く見られた。しかし、それは必ずしも適切な依頼表現とはいえない。高田・福盛（2001）の調査研究では、「～ていただけませんか。」が日本語学習者の表現として定着しているのは教科書の影響があるとしている。そして、疑問文の「～ていただけませんか。」に比べて、言いさしの「～ていただきたいんですが。」のほうが遠慮のニュアンスが込められ、依頼内容によって「～ていただけませんか。」が直接的に響くこともあると指摘している。本研究の日本語母語話者データには「～ていただけませんか/いただけないでしょうか。」が皆無であったことは、高田・福盛（2001）の指摘を支持している結果だと考えてよいだろう。そして、高田・福盛（2001）及び本研究の結果から考えると、教師への依頼状況においては言いさしといった遠慮気味の表現のほうがより適切だと言えよう。

次に、依頼対象の明言については、依頼表現の種類との関係性を考慮すべきである。日本語母語話者に見た意志表現とともに使われている例（例えば、（歓迎会での挨拶の依頼）RF5：先生にぜひ送別会のスピーチをしていただきたいな一と思って。）ならば、依頼対象の明言は特に問題にならない。しかし、例 1～例 4 のような学習者に最も多く見られた疑問文の「～ていただけませんか/いただけないでしょうか。」とともに依頼対象が用いられると、不自然な表現になってしまう。従って、疑問文の場合では『みんなの日本語』第 26 課にある例文のように依頼対象を回避し、または「先生、～ていただけませんか。」のように呼びかけにしたほうがよいであろう。

本章で取り上げた依頼表現の種類と依頼対象の明言の 2 点は、5 章述べたように、訓練上の転移が原因の 1 つである。従って、日本語学習者に工夫した指導を行うことができるならば、より適切な日

本語使用ができるようになるであろう。

7. まとめ

本研究は JFL 台湾人日本語学習者を対象に、縦断的に調査した依頼場面のロールプレイをデータに、依頼表現について日本語と中国語の母語話者データと比較しながら分析した。その結果、明らかになったことは以下の 4 点にまとめられる。

- ① 日本語母語話者データでは言いさし、中国語母語話者データでは平叙文、学習者の縦断データでは疑問文が最も多く見られた。
- ② 学習者は日本語母語話者データには見られない表現を使用して依頼を行った者が多い。
- ③ 日本語の間違いのない正確な依頼表現の使用者数は縦断的に増加しているわけではない。
- ④ 学習者が用いた依頼表現は必ずしも「正用→正用」または「誤用→正用」のようによい方向へと向かっているわけではない。

上記の結果をもとに、依頼表現の種類、及び依頼対象の明言の 2 点について指導上の私見を述べさせてもらった。今後、先行研究と本研究の結果を参考に、より各状況に適した依頼表現を JFL 台湾人日本語学習者に身に付けさせることができるよう、さらなる教室活動を工夫していきたい。

＜付記＞本研究は台湾行政院国家科学委員会の研究補助による研究成果の一部であり（計画編號：NSC101-2410-H-126-021 等）2013 年 7 月 6 日に北海道大学で行った口頭発表に、データを追加して加筆・修正を施したものである。口頭発表の際には多くの先生方、また本誌査読の際には匿名の先生方から大変有益なコメントをいただいた。ここに諸先生方、関係者各位に心より御礼申し上げたい。

引用文献

- アクドーアン・プナル、大浜るい子（2008）「日本人学生とトルコ人学生の依頼行動の分析－相手配慮の視点から－」『世界の日本語教育』第18号 国際交流基金日本語国際センター pp. 57-72
- 池田裕・三好理英子・村木万里子（2002）「中国語話者と英語話者の日本語における依頼－ロール・プレイによる発話データの分析－」『多摩留学生センター教育研究論集』第3号 東京学芸大学留学生センター・東京農工大学留学生センター・電気通信大学留学生センター pp. 51-60
- 生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号 日本語教育学会 pp. 41-49
- 大嶋百合子・Brian MacWhinney 編（1995）『日本語のための CHILDES マニュアル』McGill University
- 呉岳樺（2008）「不満表明における改善要求ストラテジーの日台比較」『台湾日本語文学期』第24号 台湾日本語文學會 pp. 231-251
- 高田恭子・福盛寿賀子（2001）「非言い切り文の考察－教科書分析と「が・けど」文末の使用実態から－」『九州大学留学生センター』第12号 九州大学留学生センター pp. 43-54
- 宮田 Susanne 編集（2004）『今日から使える発話データベース CHILDES 入門』ひつじ書房
- Olshtain E. & Cohen A. (1983) Apology: A speech acts set, In N. Wolfson & E. Judd (eds.) *Sociolinguistics and Language Acquisition*, pp. 19-35.
- Selinker, L. (1972) Interlanguage, *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching* 10, pp. 209-231.